

平成 30 年 8 月 31 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K08541

研究課題名(和文) 周産期医療プロバイダーの専門職別チーム医療に対する態度と多職種連携教育の効果

研究課題名(英文) The Effect of Interprofessional Education for Perinatal Health Care Provider

研究代表者

篠崎 博光 (Shinozaki, Hiromitsu)

群馬大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：30334139

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：多職種連携教育を実施している大学の学生と、実施していない大学の学生のヘルスケアチームに対する態度を測定し、多職種連携教育の効果について検討した。
多職種連携教育を実施している大学の学生は患者中心のケア(Patient-centered care)に対する得点が有意に高く、多職種連携教育はヘルスケアチームに対する態度に対し有益である可能性が示された。

研究成果の概要(英文)：We evaluated the effect of the Interprofessional education to investigate to compare the attitudes to participants' healthcare teams by the university students that are engaged in multi-occupational collaborative education (IPE group) and university students that do not have multi-job collaborative education (control group) with the modified Attitude Toward Health Care Team Scale (modified ATHCTS). The questionnaire survey were conducted the before and after the first year's joint lecture for IPE curricula and the before and after the multidisciplinary collaborative practice for third-year students. The scores for patient-centered care were significantly higher in the IPE group, which indicated that multi-occupational collaborative education may be beneficial to attitudes towards healthcare teams.

研究分野：医療社会学

キーワード：多職種連携教育 チーム医療教育 多職種連携協働 チーム医療

1. 研究開始当初の背景

(1) 国際社会における多職種連携教育(チーム医療教育)の現状

2010年すべての保健職業人に対する新世紀の教育を検討する委員会(Commission on Education of Health Professionals for the 21st Century)による報告では、患者や地域社会が求めるニーズと教育内容とのギャップ、チームワーク力の乏しさがクローズアップされ、多職種連携教育(チーム医療教育)の重要性が強調された(Frenk J. et al. Lancet, 376, 1923-1958, 2010)。世界保健機関(WHO)は人々の健康の維持には保健人材が必須であり(WHO. Working together for health, 2006)、保健人材数の確保とともに良質な人材の育成が喫緊の課題であり、チーム医療教育(多職種連携教育)の重要性を打ち出しガイドラインを作成した(WHO. Global guidelines on Transforming and Scaling up Health Professional Education and Training, 2013)。さらにこのガイドラインの中で、科学的検証に基づく多職種連携教育(チーム医療教育)の成果についてエビデンスが乏しいことが指摘されている。

(2) 周産期領域における専門職連携実践(チーム医療)ならびに多職種連携教育(チーム医療教育)の必要性

近年の産婦人科医ならびに助産師の不足・偏在により、分娩施設は減少し、安心・安全な分娩の提供が困難な地域が少なくない(日本産科婦人科学会調査, 2014)。さらに、2007年の日本産科婦人科学会の報告では、分娩時妊産婦は250人に1人の割合で、超ハイリスクの危険性があることが示された。

このため安心・安全な分娩の提供には周産期プロバイダーの量・質ともに充実させる必要があり、医療人材の確保ならびに医療安全の双方の点から専門職連携実践(チーム医療)ならびに多職種連携教育(チーム医療教育)が重要となっている。

2. 研究の目的

多職種連携教育の効果について検証することが本研究の研究目的である。

3. 研究の方法

(1) 縦断的の反復横断研究調査により、多職種連携教育効果の検証を行った。

ヘルスケアチームに対する態度をmodified Attitude Toward Health Care Team Scale(modified ATHCTS)を用いて測定し、それぞれのグループにおけるヘルスケアチームに対する態度について検討した。

4. 研究成果

(1) 多職種連携教育を実施している大学(IPE群)と多職種連携教育を行っていない

大学(コントロール群)で参加者のヘルスケアチームに対する態度の検討

多職種連携教育を実施している大学(IPE群)が1年次の多専攻の合同講義(Lecture-style)を行っている1年次の合同講義前後ならびに、3年次の多専攻学生協働でのグループワークならびに臨地実習を行っているIPEカリキュラム(Training-style)前後に自記式アンケート調査を実施した。コントロール群については、IPE群のスケジュールにあわせてそれぞれ1年次ならびに3年次に"実施前"、"実施後"の自記式アンケート調査を行ない、多職種連携教育の効果を検証した。

Overall mean scores

IPE群	Control群	P値
3.9±0.86	3.8±0.87	<0.001*

First-Year students

IPE群	Control群	P値
3.9±0.83	3.8±0.89	0.0020*

Third-Year students

IPE群	Control群	P値
4.0±0.89	3.8±0.85	<0.001*

Quality of care delivery

First-Year students

IPE群	Control群	P値
0.066±0.757	0.107±0.867	0.354

Third-Year students

IPE群	Control群	P値
-0.014±0.964	-0.148±0.859	0.050

Patient-centered care

First-Year students

IPE群	Control群	P値
0.025±0.766	-0.187±0.724	0.024**

Third-Year students

IPE群	Control群	P値
0.357±0.849	-0.152±0.825	<0.001*

Team efficiency

First-Year students

IPE群	Control群	P値
0.011±0.674	0.019±0.662	0.719

Third-Year students

IPE群	Control群	P値
0.173±0.742	-0.186±0.755	<0.001*

1年次ならびに3年次とも患者中心のケア(Patient-centered care)に対する得点がIPE群で有意に高く、IPEがヘルスケアチームに対する態度に対し有益である可能性が示された。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

Lee B, Shinozaki H, Boupvahn K, Tokita Y, Makino T, Matsui H, Saitoh T, Tozato F, Watanabe H. A plan for embedding an interprofessional education initiative into an existing programme in a Southeast Asian university. J Interprof Care. 査読あり, 30, 2016, 401-3.

10.3109/13561820.2016.1149156

Kururi N, Tozato F, Lee B, Kazama H, Katsuyama S, Takahashi M, Abe Y, Matsui H, Tokita Y, Saitoh T, Kanaizumi S, Makino T, Shinozaki H, Yamaji T, Watanabe H.

Professional identity acquisition process model in interprofessional education using structural equation modelling: 10-year initiative survey. J Interprof Care. 査読あり, 30, 2016, 175-83.

10.3109/13561820.2015.1092117.

Makino T, Lee B, Matsui H, Tokita Y, Shinozaki H, Kanaizumi S, Abe Y, Saitoh T, Tozato F, Igarashi A, Sato M, Ohtake S, Tabuchi N, Inagaki M, Kama A, Watanabe H. Health science students' attitudes towards healthcare teams: A comparison between two universities. J Interprof Care. 査読あり, 32:2017, 196-202.

Ogawa S, Shinozaki H, Hayashi K, Itoh M, Soda M, Kameda T, Ozawa K, Yokota H, Kamioka K, Minegishi T. Prevalence of rear seat belt use among pregnant women in a suburban area of Japan. J Obstet Gynaecol Res, 査読あり, 44, 2018 117-123.

10.1111/jog.13468

Irie Y, Hayashi K and Shinozaki H. Health-related Quality of Life and Potential Barriers to Adequate Nutrition among Japanese Hemodialysis Patients. THE

KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 査読あり, 67, 2017, 291-298.

時田佳治、高橋麻衣子、篠崎博光、渡邊秀臣、西村明日実、小川将太。【IPEの達成とこれから「地域で学ぶ」を中心に】SIPEC(群馬大学の学生組織)の活動と学生たちの声。看護教育, 査読なし, 56, 2015, 130-134.

外里 富佐江, 篠崎 博光, 金泉 志保美, 牧野 孝俊, 齋藤 貴之, 安部 由美子, 吉田 朋美, 松井 弘樹, 時田 佳治, 山路 雄彦, 佐藤 江奈, 李 範爽, 川島 智幸, 鎌田 英男, 岸 美紀子, 蒲 章則, 渡邊 秀臣. 群馬大学の Interprofessional education (IPE)の取り組み. 保健医療福祉連携, 査読なし, 10, 2017, 119-127.

[学会発表](計13件)

Ogawa S, Hayashi K, Shinozaki H. The rear passenger seatbelt use during pregnancy in Japan. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015. 2015年7月20-22日, Yokohama, Japan.

Shimizu M, Takeuchi K, Tokita Y, Kawashima T, Kanaizumi S, Makino T, Matsui H, Lee B, Saitoh T, Abe Y, Tozato F, Shinozaki H, Watanabe H. The outcome of IPE programs - from a students' perspective - (Gunma University). All Together Better Health VIII (ATBH VIII). 2016年9月6-9日. Oxford, UK.

Shinozaki H, Makino T, Takita, Y, Lee B, Watanabe H. Implementing Interprofessional Education in WPRO Countries. The 4th International Nursing Conference: Evidence Based Nursing Care. (招待講演)2017年9月21日. Ulaanbaatar Mongolia.

Ogawa S, Tokita Y, Shinozaki H, Watanabe H. Outcome of the Interprofessional Education (IPE) in

Gunma University - From Students' Perspective-. The 4th International Nursing Conference: Evidence Based Nursing Care. 2017年9月21日. Ulaanbaatar Mongolia.

牧野孝俊、李範爽、松井弘樹、時田佳治、金泉志保美、川島智幸、山路雄彦、安部由美子、齋藤貴之、吉田朋美、外里富佐江、篠崎博光、渡邊秀臣、大竹茂樹、田淵紀子、稲垣美智子. 2 大学間における学生のチーム医療に対する態度について. 第8回 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 2015年8月9日. 東京都.

渡邊秀臣、篠崎博光、金泉志保美、牧野孝俊、安部由美子、齋藤貴之、吉田朋美、時田佳治、松井弘樹、山路雄彦、外里富佐江、李範爽、川島智幸、安川隆子、岸美紀子. 多職種連携教育における群馬大学の国際展開. 第30回 日本国際保健医療学会学術大会 2015. 2015年11月21-22日. 金沢.

日下田大輔、定方久延、森田晶人、星野正道、井上真紀、亀田高志、篠崎博光、峯岸敬. 予定帝王切開の脊椎麻酔による血圧低下と児への影響についての検討. 第52回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2016年7月8日. 富山.

星野正道、篠崎博光、森田晶人、日下田大輔、定方久延、亀田高志、峯岸敬. 群馬県における分娩取り扱い施設の実態調査. 第52回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2016年7月8日. 富山.

土肥水絵、星野正道、松田知子、森田晶人、日下田大輔、諏訪裕人、井上真紀、亀田高志、篠崎博光、峯岸敬. 当院における超緊急帝王切開術(GradeA)の検討. 第32回群馬周産期研究会総会. 2016年9月24日. 前橋.

星野正道、篠崎博光、北原慈和、松田知子、森田晶人、日下田大輔、諏訪裕人、井上真紀、亀田高志、峯岸敬. 双胎妊娠

における選択的帝王切開術のタイミング. 第69回日本産科婦人科学会学術集会. 2017年4月16日. 広島.

星野正道、篠崎博光、土肥水絵、松田知子、森田晶人、日下田大輔、諏訪裕人、井上真紀、亀田高志、峯岸敬. 既往帝切後妊娠における選択的帝王切開術のタイミング～多施設横断研究の検討から～. 第53回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2017年7月18日. 横浜.

佐藤美香、牧野孝俊、磯部直幸、篠崎博光、金泉志保美、山路雄彦、松井弘樹、時田佳治、吉田朋美、岸美紀子、蒲章則、相馬仁、山本武志、杉村正樹、齋藤洋子、渡邊秀臣. 多職種連携に対する看護学生態度変化の大学間比較. 第10回 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会. 2017年9月9日. 千葉県成田市.

小川将太、篠崎博光. 妊婦の後部座席シートベルト着用実態と着用・未着用の検討. 第58回日本母性衛生学会総会. 2017年10月6日. 神戸.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

篠崎 博光 (SHINOZAKI Hiromitsu)
群馬大学・大学院・保健学研究科・教授
研究者番号: 30334139

(2) 研究分担者

渡邊 秀臣 (WATANABE Hideomi)
群馬大学・大学院・保健学研究科・教授
研究者番号: 40231724

牧野 孝俊 (MAKINO Takatoshi)
群馬大学・大学院・保健学研究科・准教授
研究者番号: 50289756